

大昔の砂川は海だった!?



砂川からは貝の化石が数多く発見されており、かつては海だったことが分かります。本州と陸続きだった北海道が島となったのは約1万4千年前と言われており、その後、気候変動などにより石狩平野が海に覆われ、砂川も海底となりました。現在の北海道の形になったのは、約3千年前と言われています。

砂川にも竪穴式住居があった!?



砂川では縄文時代の集落の遺跡が約20か所発見されており、そこから発掘された土器や石器、当時の竪穴式住居を再現したジオラマが展示されています。特に、空知太の遺跡からは北筒式や余市式などさまざまな種類の土器、石槍や石斧などの石器、垂飾(ネックレスのような装飾品)などが数多く発掘されており、当時の生活の様子を伺い知ることができます。

砂利がたくさん採れました!



明治23年(1890年)、北海道炭礦鉄道会社による鉄道工事の資材として砂川の砂利が使用されることになりました。砂川地点の石狩川の流は緩やかであったため、長年に渡り良質な砂利が大量に埋積されており、川岸での砂利採取が盛んに行われました。最盛期の^{たんこう}大正7年(1918年)頃は1日に貨車30台分の砂利を出荷していましたが、帆掛け船を使い川底から砂利をすくい上げる作業で転覆する船もあり、危険を伴う仕事だったようです。



砂川を巻き戻す

砂川が現在の姿に至るまで、どのような発展を遂げてきたのでしょうか? 公民館内にある郷土資料室では、砂川の歴史や文化・風土に関する貴重な資料を展示しています。砂川の歴史を肌で感じて、タイムスリップ気分を味わってみませんか?

昔の雑貨屋をまるごと再現!



奥にはまじいさんとまばあさんが住んでいます

明治～大正時代にかけて砂川市街にあった雑貨屋をまるごと再現しており、実際にお店の中に入ることができます。当時の雑貨屋は、金物やお菓子、切手などを販売しており、飴玉などを買うのは子どもたちの楽しみの1つでした。当時は店と居間が続いた間取りの雑貨屋が大半を占めており、奥のスペースには居間が再現されています。

スイートロードの発祥!?



砂川にはたくさんの菓子店があり、国道12号線沿いを中心に「すながわスイートロード」と呼ばれていますが、その始まりは明治時代にさかのぼります。明治23年(1890年)に設置された砂川駅は、上砂川や歌志内に向かう労働者や観光客で溢れ、駅周辺には旅館や休憩所が立ち並びました。その利用客や汽車の乗客のために、餅やまんじゅうなどの菓子が作られるようになったのが、お菓子作りの発祥と言われています。郷土資料室には、昔に使われていたお菓子作りの道具が展示されています。

郷土資料室 利用案内

- ところ 公民館3階
- 開室時間 9:00～17:00
- 休室日 12月29日～1月3日
- 入室料 無料
- ※団体でのご利用または室員の解説が必要な場合は、事前にご連絡ください。

☎公民館管理係Tel 52-2339

砂川街頭もちつきの始まり



年末の恒例行事として今もお続けている「砂川街頭もちつき」は明治32年(1899年)から始まりました。当時の砂

川では、砂利採取や木材流送が盛んに行われており、四国地方から多くの労働者が出稼ぎに来ていました。その人々が故郷をしのび、年末に各家庭を回り餅つきをしたことが始まりと言われています。

ぜひお越しください!

郷土資料室のイベント

レコードコンサート



2か月に1回、郷土資料室内のレコードプレーヤーでレコードコンサートを行っています。お気に入りのレコードを持ち込んで懐かしの名曲を楽しみませんか?(郷土資料室内にあるレコードから曲のリクエストも可能です)

特別展

年に2回程度、テーマに合わせた特別展示会を行っています。令和6年6月には「砂川の音楽展」をテーマに開催し、過去の演奏会の写真などが数多く展示されました。次回は10月19日～11月10日で「砂川のお店展」の開催を予定しています。

